

1984年2月5日

前略

日本の今冬はかなり厳しいそうですが、学年末とも重なり、いかがお過ごしでしょうか。私の方は須羽君と分れて、学生4人、女中2人との生活も、はじめのうちは言葉も忘れていてちょっとばかり苦勞しました。海田先生が来られた頃(1/31-2/3)には生活にも少しゆとりが出来かけていました。調査の方も軌道に乗りかけて来たというのが現状です。

現在、suanや土壌といった自然系の仕事は、Somkietが主にやっています。また daily survey は引き続き Warida が担当して、毎日同じ仕事をくり返している状態です。この二人の他に Uthit と Songsin の2人を使って、現在、調査をしています。Uthit には米倉の調査をしてもらっています。DD村にある米倉全部と、NSB関係の米倉を合わせた約150倉について、その位置(地図上で確認)大きさ、所有者名、今年の米(豊作だったので)の取納量、どの水田の米を取納しているか(地図上で確認、またその水田で誰が働いたか(名前と House No.)、そして誰がその米倉の米を食べているか(名前と House No.)、あるいは米倉をどのように使用しているかなどについて調べています。稲作を中心とする経済などを考えるとどうしても米倉を促える必要があると思われたので、ちょうど Uthit に仕事を与えねばならない時期と重なったので、思いきって頼みました。

Songsin は、私と一緒にNSB関係者(農家)36軒を調査しています。調査票(21ページ)は、こちらに来てから作って、毎日一軒ずつ interview しています。最初だけは時間がすごくかかり、2日間にわたりましたが、今では平均3-4時間ですんでいます。調査票に沿った質問の途中で、私が関連質問をするので、どうしても時間が長くなり、午前と午後の2回にわけて interview しています。

かなりゆったりと interview していますので、結構おもしろいことも少しずつ分りかけて来たような気がします。例えば、soi kan (助け合い)のあり方もそのひとつです。今までに考えていますことの一例を示しますと、soi kan は次の4つのタイプにまず分類できるように私には思われます。

- (1) het nam kan, kin nam kan, yu nam kan [共働、共食、同居]
- (2) het nam kan, kin nam kan, yu pai yu man [共働、共食、別居]
- (3) het nam kan, kin pai kin man, yu pai yu man [共働、別食、別居]
- (4) het pai het man, kin pai kin man, yu pai yu man [別働、別食、別居]

そして、さらに(3)は具体的には

(イ) het nam kan, baeng kan (baeng khung kan) [共働、分割 (等分割)]

(ロ) het nam jan, baeng hai kin [共働、分与]

といった形で発現しているようです。

また(4)は実に多様であります。

(イ) hai het susu [いわゆる完全な使用貸借]

(ロ) hai khao het hai kin [owner 側の用語]、hai tham or hai het
[share cropping]

(ハ) baeng khao hai [米の分与]

(ニ) het soi kan [協働 (labor exchangeを含む)]

(ホ) soi kan (例. sum mii soi kan) [互助 (スム内の互助)]

(ヘ) baeng (muun) hai [いわゆる相続完了]

(ト) sao, hai sao [rented-in, rented-out]

といったものに分類できそうです。

これらは、その労働対象が何であるか(すなわち、水田、畑か、suanかなど)によって、その生起は異なるようですし、また親族間のどの関係間でのことなのか、あるいは他人関係かによって発現は異なるようです(それは結局、相続のどの段階に位置するかということでもあるようです)。あるいは農業の経営体のタイプによっても異なるように思われます。現在、それらの詳しい事例を収集しているのと、それらの確認を急いでいるところです。

まずは、近況の報告まで。

舟橋和夫